



埼玉県支部会員による特別寄稿並びに、平成 23 年 4 月～7 月までに開催された埼玉県支部行事に関する報告記事を掲載しました。

— 目 次 —

| | |
|--|-------|
| 1. 埼玉県支部の事業 | |
| (1) 今年度（平成 23 年度）の事業計画 | 六十里 繁 |
| (2) 昨年度（平成 22 年度）の事業実績報告 | 六十里 繁 |
| 2. 平成 23 年度定期総会報告 | 六十里 繁 |
| 3. 埼玉県支部の研修会及び行事に関する報告 | |
| (1) 東日本大震災炊き出しボランティア報告書 | 當麻 和輝 |
| (2) 埼玉県支部 研修会「東北地方太平洋沖地震 （東日本大震災）及び復興について」の講演要旨 | 神林 幸夫 |

1. 埼玉県支部の事業

(1) 今年度（平成23年度）の事業計画

防災士 六十里 繁

平成23年度7月までの埼玉県支部事業は、定期総会と下記のような研修会を2回実施しました。

8月以降は、例年開催されている九都県市合同防災訓練などに参加して「ロープワーク教室」の開設、その他の訓練支援などを実施する予定ですが、本年度は新たに、10月：「防災マップ作成研修会」は、越谷市本吉第二自治会地域で講習とフィールドワークを行う研修会、12月：本所防災館の見学会、2月：野外炊飯訓練等を企画しております。埼玉支部会員皆様の参加を期待しております。

平成23年度細部計画：

4月：第1回役員会：4月17日（日）

5月：平成23年度定期総会：5月28日（日）：45名（会場出席者＋委任状提出者）
参加；実施済

6月：研修会：「地震に備える」：神林講師；6月12日（日）13名参加；実施済
第2回役員会：6月12日（日）

7月：ロープワーク研修会；田口講師、浅川講師指導；7月23日（土）9名参加；実施済

第3回役員会：7月23日（土）

8月：九都県市の支部会員準備会合：8月27日（土）午前

9月：九都県市合同防災訓練/埼玉県・川口市総合防災訓練

防災フェア「ロープワーク教室」：9月1日（木）

9月：首都圏帰宅困難者対応訓練：未定

10月：防災マップ作成研修会：10月22日（土）午後；越谷市本吉第二自治会地域

11月：さいたま防災ひろば（ロープワーク教室）

12月：本所防災館の見学会/忘年会

2012年

1月：千代田区帰宅困難者避難訓練（CERT訓練）

2月：野外炊飯訓練

3月：埼玉県防災学習センター（ロープワーク教室）

(2) 昨年度(平成22年度)の事業実績報告

六十里 繁

平成22年4月～平成23年3月までの間に開催した埼玉県支部行事をまとめてみました。

平成22年4月18日(土)

平成22年度定期総会

- ※ 平成22年の事業計画・予算計画・規約改正等が承認されました。
- ※ 参加者：埼玉県支部会員19名＋委任状25名



8月29日(日) 研修会:「ロープワーク事前訓練」及び総合防災訓練参加者打合せ会

- ※ 9月5日のロープワーク教室開設に対応する事前訓練・打ち合わせ
- ※ 参加者：埼玉県支部会員10名
- ※ 行事案内文：ロープワークを練習したい方は、お気軽に参加してください。埼玉県・羽生総合防災訓練に参加しない方もご参加ください。特に、今年度進入会者は大歓迎です。

9月5日(日) 九都県市合同防災訓練(埼玉県総合防災訓練:羽生市)での「ロープワーク教室」

- ※ 埼玉県羽生市総合防災訓練へ参加し市民にロープワークを指導
- ※ 参加者：埼玉県支部会員11名



9月25日(土) 2010年首都圏帰宅困難者対応訓練(埼玉県内コース)のASでの支援

- ※ 帰宅困難者対応訓練参加者に対する支援を草加市旭町会ミニ広場ASにおいて実施
- ※ 参加者：埼玉県支部会員8名



9月26日(日) パーク若草自主防災会「ロープワーク教室」

- ※ 桶川市パーク若草自主防災会による「団地防災訓練」参加者に対するロープワーク指導
- ※ 埼玉県支部会員 2名



10月9日(土) 研修会：「消防あれこれ」

- ※ 講師：平柳盛行氏(埼玉支部会員)
- ※ 東京の消防に関する様々な活動について研修する
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 17名＋非会員 2名



10月17日(日) 桶川市自主防災会の地区合同防災訓練での「ロープワーク教室」

- ※ 下日出谷三地区防災訓練参加者に対するロープワーク指導
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 4名



11月13日(土) 「さいたま防災ひろば 2010」での「ロープワーク教室」

- ※ 武蔵浦和駅ラムザ広場で開催された「さいたま防災ひろば 2010」で市民にロープワーク指導
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 9名



12月11日(土) 研修会：「北区防災センター研修会」

- ※ 座学・展示物見学・煙体験・消火器操作訓練等を体験した
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 12名



平成 23 年 1 月 16 日(日) 研修会：「朝霞市の自主防災組織について」

- ※ 講師：浅川俊夫氏(埼玉支部会員)
- ※ 朝霞市における自主防災活動について研修する。
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 10 名



2010 年千代田区帰宅困難者避難訓練における救出訓練(CERT：サート訓練)への参加

- ※ 救出訓練(CERT：サート訓練)に支部会員も参加した
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 5 名並びに飯田橋地域協力会社員多数



2 月 11 日(金) スキルアップ講座：研修委員会・埼玉県支部共催；「耐震補強法&転倒防止法」

- ※ 講師：大石武司氏(静岡県庁)
金子美香氏(清水建設)
- ※ 大震災での圧死防止策としての「耐震補強法及び家具転倒防止法」に関して研修した。
- ※ 参加者：埼玉県支部会員 18 名並びに他支部会員約 50 名以上



3 月 6 日(日) 埼玉県防災学習センターでの「ロープワーク教室」

- ※ 来館者に対するロープワーク指導
- ※ 埼玉県支部会員 9 名



2. 日本防災士会埼玉県支部 平成 23 年度定期総会(報告)

防災士 六十里 繁

平成 23 年 5 月 28 日(土)に開催された日本防災士会埼玉県支部平成 23 年度定期総会は、多くの埼玉県支部会員の出席を得て盛会のうちに無事終了致しました。平成 23 年度定期総会の審議議案等は下記の通りですが、参加会員の活発なご議論の下、全ての議案の承認と議決を頂きました。また、定期総会終了後の懇談会においては、支部活動の活性化を図る意見交換を行いました。更に、別会場に移して行われた懇親会では、会員相互の親睦も深めることが出来ました。なお、定期総会出席者より 9,000 円の東日本大震災義援金をいただき日本赤十字社をとおして募金いたしました。

＊ 定期総会：

- 1 日時：平成 23 年 5 月 28 日(土) 午後 1 時 15 分 ～ 午後 2 時 15 分
- 2 会場：さいたま市桜木公民館 講座室 2
- 3 進行次第

防災士 六十里繁氏の進行により以下の次第で平成 23 年度定期総会が進められた。

- (1) 開会挨拶 日本防災士会埼玉県支部長
- (2) 議長の選任 支部長 木船賢治氏
- (3) 議事録署名人(2名)の選任；鈴木勇氏、守屋正美氏
- (4) 議案審議

- | | |
|---------|--------------------|
| 第 1 号議案 | 平成 22 年度事業実績報告 |
| 第 2 号議案 | 平成 22 年度収支決算及び監査報告 |
| 第 3 号議案 | 平成 23 年度事業計画(案) |
| 第 4 号議案 | 平成 23 年度収支予算(案) |

＊ 追記事項：

| | | 今期予算額 | 前期実績額 | 備考 |
|-----|----------|---------|-------|---------|
| 事業費 | ボランティア保険 | 33,320 | 0 | 490×68名 |
| 予備費 | | 236,162 | | |

第 5 号議案 規約の改正(案)

＊ 修正事項： 第 2 条第 5 項：会員は、退会、死亡等により資格を喪失する。

第 6 号議案 役員の選任(案)

(5) 閉会

＊ 定期総会終了後の懇談会
午後 2 時 30 分～午後 5 時



3. 埼玉県支部の研修会及び行事に関する報告

(1) 東日本大震災炊き出しボランティア報告書

防災士 當麻和輝

朝霞アマチア無線クラブとキャンピングクラブの合同（参加人数：12名）で、5月連休を利用して宮城県石巻市鮎川町において、炊き出し等ボランティア活動を行ってきましたので報告します。

1. 行き先：宮城県石巻市鮎川町子供センター避難所 避難者は 150 名
2. 日程（平成 23 年 5 月 2 日 22 時出発～5 日 07 時帰着）
2 日 22 時頃朝霞を出発 → **3 日** 07 時頃現地到着、近くのキャンプ場にベースキャンプを設置 → 08 時頃 避難所に出向き炊き出し準備 → 16 時頃炊き出し終了（完食） → 夜は映画上映(DVD,アニメ)
4 日：午前中は避難所近くの民家でガレキの整理、午後は別の民家でヘドロの搬出作業。夕方（17 時頃）帰路に着き → **5 日** 07 時頃朝霞に到着

3. 出動車両

キャンピングカー6台、軽自動車1台、軽トラック1台

（軽自動車と軽トラックは炊き出し終了後、避難所に寄贈してきました）

4. 炊き出し材料

やきそば 600 食、卵 400 個、米 40kg、きゃべつ 90 個、その他野菜、あんまん 200 個、肉まん 200 個、ポテトコロッケ、ドリップコーヒー、ポップコーン、その他菓子類、子供衣類。

5. 献立

やきそば、ポテトフライ、コロッケ、ポップコーン、肉まん、あんまん、野菜スープ等

6. 1 日目（5 月 3 日）の作業

(1) 炊き出し

朝の 8 時頃から炊き出し準備を行いましたが、多くの避難者に取り囲まれ、歓迎されていることを肌で感じる事ができました。準備する我々の作業にも拍車がかかり、やりがいのある時間でした。この避難所には、今まで一度もボランティアが来たこと



はなく、毎日の食事は、おにぎり、パン、牛乳等のみでしたので、温かい食事が喜ばれたようです。特に、野菜スープは人気があり、何杯もおかわりをしていただきました。また、7km離れた避難所から来たという人々もおり、16時頃には、用意した食べ物はすべてなくなりました。

(2) 映画鑑賞会

夜は、用意しておいたDVD(アニメ等)で映画会を行いました。テレビも見られない状態でしたので、皆さん、ほんとに喜んでいました。

7. 2日目(5月4日)の作業

4日の午前中は、避難所近くの民家で「ガレキ」の整理を行いました。この民家は、建物自体は残っていましたが、家の中はヘドロでダンスや電気製品等は使いものにならない状態でした。外に搬出したダンスの中から出てきた泥まみれの家系図を、家主が涙を流しながら泥を落としているのが印象的で、我々も思わず涙がでる始末でした。

午後は、別の民家でヘドロの搬出作業を行いました。床板をはがし、スコップで床下にたまったヘドロをかき上げる(かき出す)わけですが、これがかなりの重労働であり、臭いと暑さで体力は消耗、これがボランティアか、という思いでした。17時頃、すべての作業を終了させ帰路に着きました。



8. 感想

炊き出し作業中、子供たちははしゃぎ、明るく振舞っていましたが、子供たちの年齢に合いそうなお父さんの人数が少ないのが気がかりでした。後で、「被災でなくなられた方も多かったようです」という話を聞き愕然としました。

今回のボランティア参加について思うことは、たった2~3日で何ができたのか。確かに避難所では歓迎されましたが、今後彼らの生活がいつになったら元の生活に戻れるのか。私たちの行為は、砂浜で一円玉を探すようなものでなかったのではないかと、そんな感じがしてなりません。



最後に、ボランティアに参加する機会を作っていただきました各クラブの皆様、朝霞市危機管理課の皆様、本当にありがとうございました。

(2) 6月12日に実施した埼玉県支部研修会「東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) 及び復興について」の報告

防災士 神林 幸夫

講演要旨

1. 東北地方太平洋沖地震の概要

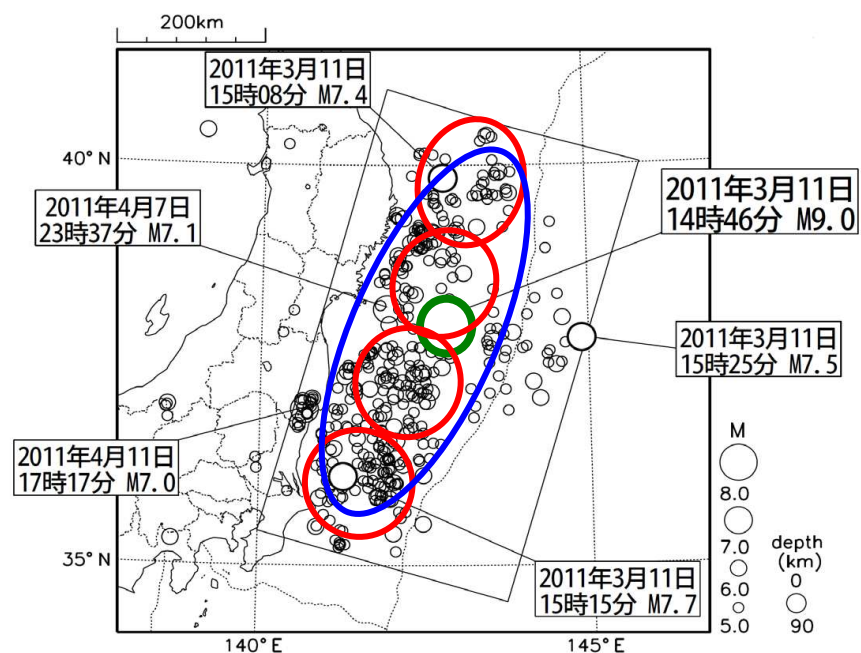
発震時 : 2011年3月11日 14時46分

地震の規模(マグニチュード): 9.0(Mw)

震源域 : 岩手県沖~茨城県沖(長軸は約500km)

今回の地震の被害状況は、死者15,000人以上、行方不明約5,000人。

2. なぜ、あのような 大きな地震が発生した のか?



上図は、大地震が発生した3月11日から約1ヶ月間に発生したマグニチュード5以上の地震の震央分布図である。

緑の円: 今回の地震の震源、破壊(マグニチュード9.0の地震)が始まったところ。

青の円: 今回の地震の震源域、破壊された(地震でプレートが滑ったところ)領域。

緑の円のところから両側に破壊が進んだ。破壊速度は2~3 km/S

赤の円は、通常、大きな地震が発生するであろうと思われていた地震の震源域であり、今回は、たまたまこの4つの領域が同時に破壊したものである。原因は分からないが、何回かに1度(千年に1度?)は、このようなことが起こりうるようである。

3. 津波の脅威

(1) テレビの映像を見ていると、津波の怖さは、高さより流れであることが実感できる。また、車や船が家屋を破壊していることが見て取れる(車避難禁)。

(2) 過去の大災害の死者の原因を見ると、関東大震災では 9 割以上が火災。阪神淡路大震災では 9 割以上が家屋の倒壊。今回の東日本大震災では、9 割以上が津波によるものようである。

4. 過去の教訓は生かされたか

(1) 強い地震（震度 4 程度以上）を感じた時は、直ちに海浜から離れ安全な場所に避難する。となっているが、果して？ 避難場所は？

(2) 三陸沿岸は、昔から津波で大きな被害を被っている。釜石の隣村の唐丹（とうに）には、海岸よりはるか高いところに「ここまで津波が来て皆死んだ。ここより下に家を建てな」という碑がある。明治の三陸大津波で 30m 以上の津波があり、2 万 2 千人が亡くなった。このような大惨事の言い伝えや警告にもかかわらず、海岸付近まで家が下がってきている。

(3) 稲むらの火(津波来襲から復興まで)→津波警報、失業対策（村人の雇用）

(4) ハザードマップについて →万能か？ 自分たちで作成すべき

5. 復興に対する問題点

(1) 津波対策で防波堤や水門を「万里の長城」のように建設するのは、時間的にも財政的にも限界がある。

(2) 田老町の堤防は？ → 10m の堤防であるが、高くすれば生活環境悪化。堤防は津波衝撃緩和、また住民が非難する時間を稼ぐのが目的（のはず）である。

(3) どこに家を再建すればいいのか。自分の土地？高台？行政の指導は？

(4) 大地震により地盤沈下 満潮時には浸水するところもある。

6. まとめ

(1) 現在進められている復興計画は？問題点を整理して早急に。なかなか難しい。

(2) 過去の教訓を生かす必要がある(言い伝えの碑、稲むらの火、田老町の堤防)

(3) 津波と仲良く付き合う方法を考えなければならないのではないか。例えば、津波の通り道を作ってあげる。一方で避難ビル・避難タワーの整備、また、高速道路等は避難場所として活用する。

(4) 国や県にまかせっきりの復興では？

編集後記：次号(第 10 号)は東日本大震災特集号を予定(9 月頃)しています。東日本大震災や福島原発に関する報告等、皆様の投稿をお待ちしています。

投稿先は神林宛 (kan88303@yahoo.co.jp) ヘワード文書でお願いします。

(編集担当 神林 記)